

平成 30 年度 野々市市子ども・子育て会議 保育部会
会議録（要旨）

日時：平成 31 年 2 月 8 日（金）

午後 7 時～

場所：市役所 2 階 201 会議室

1 出席委員 9人

2 配布資料（当日配布）

- 資料1 平成31・30年度野々市市保育園・こども園・幼稚園定員
- 資料2-1 野々市市内の保育園・認定こども園の入園希望児童数及び定員の状況
- 資料2-2 野々市市内保育園・認定こども園、児童数の推移
- 資料3 野々市市内の保育園・認定こども園における保育ニーズの上振れ要因と対策案
- 資料4 市立保育園の園舎設置年と存続方針案／新園誘致スケジュール

3 会議録

（1）開会

（2）子育て支援課長あいさつ

（事務局）

資料1「平成31・30年度野々市市保育園・こども園・幼稚園定員」、資料2-1「野々市市内の保育園・認定こども園の入園希望児童数及び定員の状況」、資料2-2「野々市市内保育園・認定こども園 児童数の推移」、資料3「野々市市内の保育園・認定こども園における保育ニーズの上振れ要因と対策案」、資料4「市立保育園の園舎設置年と存続方針案／新園誘致スケジュール」に基づき説明

（和泉部会長）

ただ今の、資料1、資料2の1、資料2の2の説明につきまして、ご意見・ご質問はございませんか。

（委員）

前回の子ども・子育て会議の説明で、保育園幼稚園の先生1人に対する園児の数、受け持つ園児の数が全国のきまりよりも野々市市が先生1人に対するお子さんの数が少なく、とても手厚くみてもらっているというアピールをしてもいいのではありませんか。施設の老朽化で閉園しただけだと職員の配置基準の水準が下がってしまうのか、そういうところの熱意をもって、いままで取り組んでくださっていたというデータがあってもいいのではありませんか。

（和泉部会長）

貴重なご意見ありがとうございます。質問を超えて前向きなご意見でございました。

（事務局）

ありがとうございます。市内の園につきましてはできる限り人数配分については手厚い保育をしていますし、法人園につきましても市と同じような水準で子どもたちをもっていただけただけの場合は市からの補助金を交付しておりまして、法人園も極力手厚い保育というものに努力していただいております。

（和泉部会長）公立に準じる保育の質の維持という、市も十分な配慮の中でおこなわれているということをご返答いただきました。そういうようなことも、もし資料にしにくい部分があれば口頭でも結構ですので改めてまた本会議のときにも付け加えていただくと心強いかもしれませんね。質問プラスご意見もどうぞ。

（委員）資料2の1のところで平成31年度の年度末の申請数が2,351人みてありまして定員は実際には取り下げなどがあるので2,315人といわれたかと思うのですが、計算すると36人取り下げぐらいされるのかなと思います。資料3のほうにいつてしまうのですが、申請の取り下げ数が潜在ニーズとして76人見込んでらっしゃるということでこのあたりの整合性があるのかというのが1つと、今の委員さんのお話と関連するのですが、資料4のところで2園を閉園したあと、その保育士さんがどのように新しい園に関わっていくのか、保育の質がどのように変わっていくのかなというところが、知りたい点だと思いますのでこの2点、お願いします。

（事務局）この一番下の2,315についてはあくまでも定員でありまして、少し余裕をもった数字になっております。野々市市は年度内の途中入園のご希望にも対応しております。他市町からの転入をお考えの保護者様がおいでたら、途中入園に対応してもらえそうな市町を選ぶとなると、野々市市では途中入園のお問い合わせも確実にはあります。ご相談をうけるなかにも数にカウントするとなれば、もっとニーズをかかえている状況であります。

（和泉部会長）資料3の潜在ニーズの数あわせの中身を意見交換いたしました。不確定要素も含めながらこういう見込みをもっていつているってことでよろしゅうございますか。ありがとうございます。資料3資料4についても少し話題がでてきておりますので、質疑の範囲を少し広げましょう。よろしく願いいたします。

（委員）資料3、4のところもからめて定員のところを詳しくお尋ねしたいのですけれども、資料1のところの公立さんの5園ありますね、30年度のところに例えば押野さんが140のよこに三角の10とあるのは160の定員だったものを140にしました。そして31年度はまたプラスしたのでここは横ばいということですよ、御経塚さんについてはちょうどしたけれども定員変更はなかったけれども31年度は20プラスして140という、こういう

それぞれの事情での上限、平米数を考えてのプラス 110 というのはすごいと思うのでそれまでしてでも定員を増やさなければいけなかったというニーズがそれだけ多いのだと思います。新しい園を誘致していく中に資料 4 の最後にあすなろ保育園と中央保育園の閉園も視野に現在の定員、2 園で 125 人っていうのがどこの数値なのかがわかりません。これもこれから 2 年後 3 年後にできる園のころまでの横ばいの人数っていいながらもそこを想定しての 125 人でしょうか。これを足すと今年 140 で 31 年度は 190 人の定員でいっているのが 125 人になるとまた足りなくなるのかなと、この 125 人はどこからでましたか。

（事務局）保育士の配置基準は国基準でしたら 1 歳児は 6 対 1 です。それを野々市市は 4 対 1 ということで発達年齢の幅が大きいこの年齢に関しては手厚い保育をすすめています。資料 1 にご提示してあるこの数値は、待機児童をださない、市民の皆様の保育のニーズに対応するということを第一に考えた数値です。新規園の定員 125 というのは、あすなろ園でしたら、85 人くらいで、中央でしたら、0、1、2 歳専用ですから 40 人規模が未満児ならではのゆったりとした環境の保育をすすめられる理想の人数です。資料に関しては整合性のないところもありますが、この気持ちも心も育てるところを考えるとこの程度の人数でいきたいという、そういった希望的観測も入っている人数でございます。

（和泉部会長）それで足りないことになりませんかというところはどうなのでしょう。

（事務局）30 年度の中央に関してはアクシデントもございまして、ヴィテン保育園さんのお子さんも 4 月 5 月今年度受け入れて中央の子どもとして保育させていただいたという事情もございまして、プラス 15 の 55 というところにあります。今現在の人数としては今年度、今の時点で 48 人、年度末には少し増えますけれども 52、3 であうかなというところです。中央は 40 人、あすなろは 85 人、合わせて 125 人でたりるかどうかなというところと正直なところ少しぎりぎりではございますので、こちらの公募のなかで 100 から 140 の少し幅をもったなかで考えていくというふうに提案させていただいております。

（和泉部会長）100 から 140 規模の園の公募ということで事務局からは提案されております。当分のあいだっていうのはどれだけのあいだかという疑問をもたれることもあるかと思いますが、こういう規模の話で 4、5 年はというような思いをもってよろしいでしょうか。

（事務局）次期計画の期間中はこの体制のままいきたいと思っております。

（和泉部会長）最短でも平成 33 年、2021 年であるということになりますかね。委員からご質問いただいた公立保育園とのからみ、スタッフの質など様々な疑問を抱いていると思

いますが、加えて何かそれに関するご意見等ございませんでしょうか。

（委員）先ほどもあったように質を絶対担保して野々市独自の手厚く0歳児をみるということをぜひ続けていただけたらと思います。園を新しくする、それと合わせてスタッフもこんな風にするというところをだしていけられたらいいと思います。

（事務局）いまから公募させていただくのですが、条件というのは公募する側、市が決められるということになります。その上で園の規模であったり園の設置場所であったり保育士の配置基準であったり、質でいえば園長の経験年数であったり縛りをかけることができます。最低限、野々市市の保育の方針なり、理念を遂行できないいい法人がきていただくように少しはそういう条件をつけさせていただいたうえで公募したいと考えております。

（和泉部会長）公設民営ではなく、民設民営という公募ですね。それから連携でもないですね。

（事務局）民設民営です。連携もございません。

（和泉部会長）東京にある市などは園長が15年の保育経験のあることや、採用する職員は5年の保育経験があること、法人として5年以上の幼児教育に関する実績があることなど、かなり厳しい条件を付帯させておりますので、できるだけそのような主要都市の条件などを調査なさって、十分にそのへんのところの市の方針をくみたてていけられるだろうと思います。新しい方向性を見出していくことについての疑問はいかがですか。私はこの上振れ要因などを改めてこうして提示されたものを読ませていただきますと、確実にこの図は野々市市に本当にあてはまる的確な図をいただいたと思います。無償化もどのように影響するかということも、やはり満3歳の子たちの動きもありますので、決してないとはいえないですし、低所得世帯のようなものも含めてあると思います。女性の就業率につきましては野々市と同じくらいのレベルで国も推移しておりますね。76ぐらいに上がっていると思います。これも確実に野々市の保育のこどもの増加というものの支えにはなってくれているのではないかと思います。最後のページが市としての提案内容のおもだったものになります。このへんがみなさんのご意見が増えるところではないかと思います。いかがでしょうか。

（委員）前回保育士の確保が難しいという話をもとに園の人数を増やしたのもありますけれど、保育士の人数が足りないということで先生1人に対する園児の数を調整していく話があったと思いますが、こうやって1つ新しい園を作るとなるとまた保育士を新たに何十

人単位で採用しなければいけないと思いますが、そこは間違いなくいまでも厳しいのに確保できるのかという心配な点もあります。建物があっても先生がいないとどうにもならないのでそこがすごく心配なところですけど、いかがでしょうか。

（和泉部会長）首都圏にある現状です。建てたけれども保育士がいらない、これは認証保育所的なところのことですが、これを事務局に聞いてもがんばりますとしかいいようがないでしょうけども、コメントいただけますか。

（事務局）保育士確保については大変厳しい現状であることは間違いありません。ただそれをふまえた上で公募の手を挙げていただけるものだと思っております。養成校は前回の本会議で和泉先生からもお話のあった学院大学でも保育学科が修了生を出される時機になっているので、少しは保育士の数も増えるのではないかと思います。そしてまた県でも保育士不足ということで、福祉のお仕事マッチングサービスからのご紹介の方々も野々市の保育士のネットワークや人づてにお願いするということを超えてまた新しい人材と出会う、ご紹介をいただくという件数も確実に増えております。すべて1日の1人分になるかというとなかなか難しいですが、短時間であっても何人かで1を賄うということで県の施策も効果が表れています。事務局としては前向きにとらえていきたいと思っております。

（委員）あすなろ保育園、中央保育園の閉園と新園というのは、閉園して新しい園を建てるというお考えですか。

（事務局）資料4の真ん中にも書いてありますけれど、児童数の増減にしばらくは対応する容量は残しておかなければいけないと思っておりますので新園と既存5園は当分の間は平行して開園させていくつもりであります。

（和泉部会長）

ありがとうございます。保護者との連携、地域との連携というところをしっかりとやる法人でないとだめですね。保育部会として事務局の提案のとおり承認し、本会議へお諮りをいたしますが、ご異論ございませんでしょうか。なければ本日の議事がすべて終了しましたので進行を事務局のほうへお返しします。

（事務局）

和泉部会長ありがとうございます。事務局の提案にご同意いただいたということで、本会議にむけていきたいと思っております。これをもちまして、平成30年度野々市市子ども・子育て会議保育部会を閉会させていただきます。ありがとうございます。

以上